

## 「I ♥ URESHINO」

新たな交流拠点の誕生を契機に取り組む“Withコロナ観光まちづくり”  
令和7年度 第2回 嬉野市未来技術地域実装協議会

# 令和7年度嬉野市未来技術地域実装事業

## 次年度以降の取組みについて

令和8年3月13日

# 目次

1. 嬉野の魅力を全国・全世界に発信する環境づくり事業 ……3
2. 来訪者の移動を支えるモビリティサービス事業 ……7

## デジタルインフラを活用し嬉野の魅力为全国・全世界に発信できる環境が実現

- オンライン上に嬉野観光をPR出来る数々のインフラを整備し、実践を通して集客・誘客効果を得た。
- LINE公式のお友だち登録は3万人に迫り、新たな来訪者や再来訪者の安定獲得に繋がっている。
- プロモーションノウハウやイベントとの連携ノウハウも積み上がり、他地域に先んじた未来技術の活用による旅マエの誘客、旅ナカの満足度向上につながるアセットを運用中。
- さらなる活用を通し、集客・観光消費額の増に貢献することが可能。

## 「嬉野観光」の担い手が自立してサービス提供できるようになりつつある

- 4年の実証・実装を通し、すでに担い手に運用が移行したのものもある。
- 個人情報を伴わないサービス（バーチャル嬉野や嬉野散歩）やECサイトは観光協会が自立運営。
- デジタルネイティブの若者の雇用に関しても模索、持続的なサービス運用が図れるよう検討

## 令和8年度以降の取り組み

- 地域未来交付金（地域未来推進型ソフト事業）の最終年度のため**自立自走に繋がる施策を推進**。
- 地域の担い手が自立運用し、嬉野観光の誘客・集客・サービスを倍加させる**4つの取組（メタバース、バーチャルツアー、LINE公式、EC）を完遂**し、地域未来技術実装が嬉野で実現する。
- デジタルインフラのノウハウは**暫時地域自立運営のスキームに転用**できるように取り組む。  
（情報技術の担い手には、嬉野高校生等の若者の力を借りるスキームを検討思考中）
- **令和8年度に自立移管**することを目指す。

目標

## 地域未来交付金（地域未来推進型ソフト事業）

【概要】

- 地域未来交付金（地域未来推進型ソフト事業）の最終年度であるため、自立自走に繋がる施策を推進。
- これまで成果を上げてきた取組を、地域の担い手が自立運用し、嬉野観光の誘客・集客・サービスを倍加させる
- 4つの取組を完遂し、地域未来技術実装が嬉野で実現する

デジタルモール嬉野（メタバース）の運用

バーチャル嬉野・嬉野散歩の運用

LINE公式アカウントの運用

データの活用

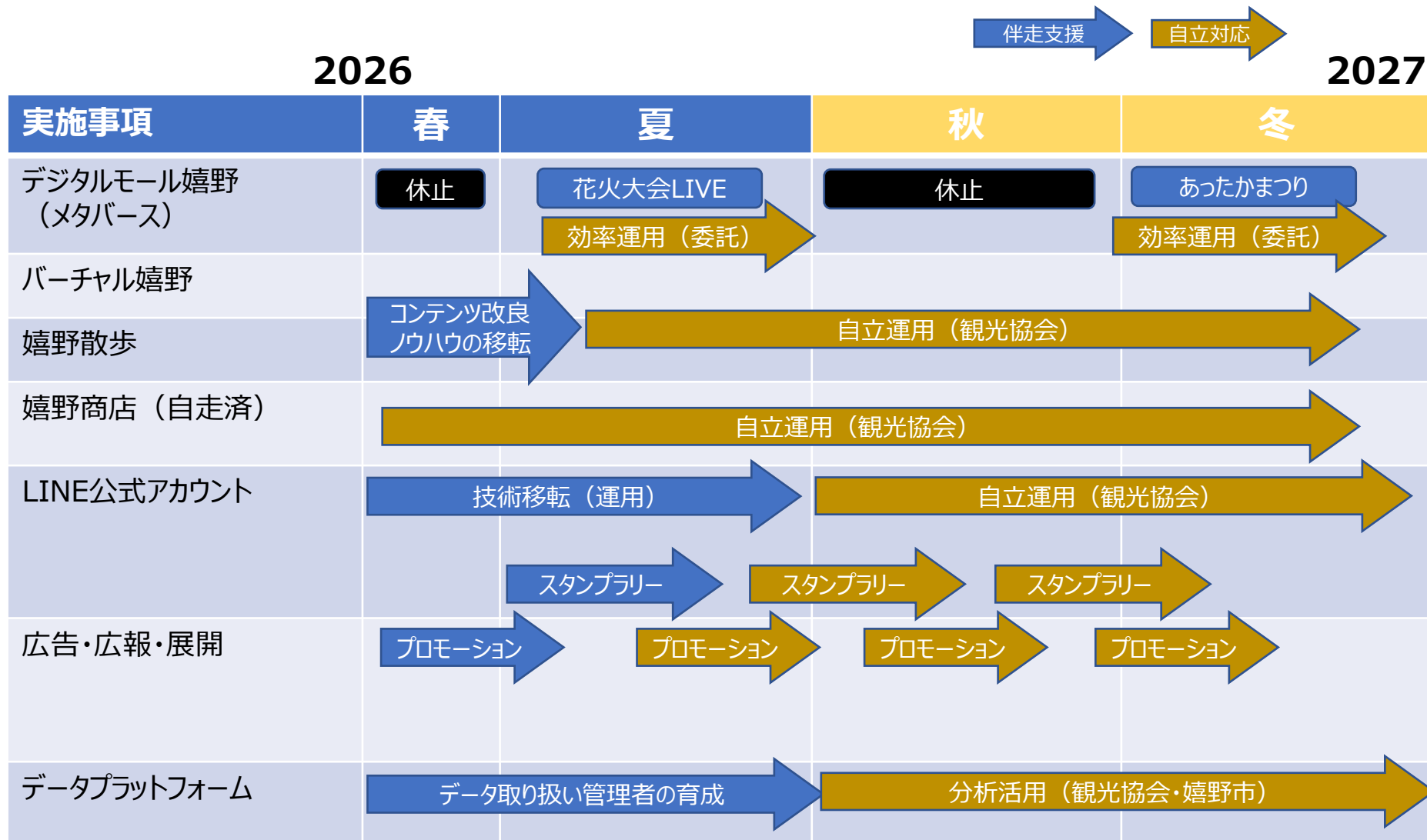
【計画項目（2026年度計画計上）】

1	デジタルモール・バーチャルモールの構築	地域未来交付金（地域未来推進型ソフト事業）	①デジタルモール嬉野（以下、「DMU」）等の運用（2,400千円） ②地域の担い手で自立運用できるツールの機能強化と伴奏型教育による自立運用の支援（3,100千円）
2	デジタルモール・バーチャルモールのコンテンツ作成	地域未来交付金（地域未来推進型ソフト事業）	①花火のライブ配信時のチャット機能の強化などの既存機能の強化（3,800千円） ②地域の担い手自らがコンテンツづくり作りを担うツールの機能強化、伴奏型教育による自立運用支援（3,200千円）
3	来訪者と生産者をオンラインで結ぶコミュニケーション環境構築	地域未来交付金（地域未来推進型ソフト事業）	①LINEの運用維持（2,400千円） ②既存のLINE商材や旅ナカにおける移動支援機能（公共交通案内、スタンプラリー、おすすめ情報）の強化、伴奏型教育による自立運用支援（5,500千円） ③LINE友達登録25,000人の拡大、さらには、来訪促進に向けた新たな広報・プロモーションの実施（4,000千円）
4	5G技術を活用した各種データの収集・提供	地域未来交付金（地域未来推進型ソフト事業）	①観光データの見える化に向けた動態管理用ダッシュボードの作成と運用（2,000千円） ②担い手によるサービスの普及・定着・改善に向けた分析システムの作成と教育（3,000千円）

**工程**

これまでの成果を定着させつつ、集客誘客やサービス向上、プロモーションに活用

- 伴走型支援を続け、徐々に自立運営体制にシフトする。
- 自立運営体制は、①嬉野温泉観光協会（DMO）、②市等からの委託、③道の駅（指定管理者）で整理



今後

これまでの成果を定着させつつ、集客誘客やサービス向上、プロモーションに活用

2024年度までに、未来技術の成果といえるITインフラが世に出て世界に発信しています。

2025年度に地域実装を行っていくための普及促進、担い手の育成、共同運用を継続し、運営可能の評価ができました

「嬉野の魅力为全国・全世界に発信する環境づくり」はほぼ達成したといえます。

のこり1年で、完全自立に向けた課題解決を図ります。

デジタルインフラ	2026以降の運用案 (青字は確定)	想定運営者	移管後の必要費用 (運用費用)	収益確保の可能性
 デジタルモール嬉野	イベント時に起動。 リアルとバーチャルの 連動イベントに活用 (年2月程度)	道の駅 指定管理者 (市委託)	開設期間中・イベント実施中 にコストが月単位で発生。 利用料が22万円/月	モール内の看板広告 貸し空間としてイベント運 営経費を明記することで利 用者を確保
 嬉野商店	観光協会にて 実装運用	観光協会 (自立)	利用料が安価な仕組み を採用 利用料 3,300円/月	ECサイトの運用収益
バーチャル嬉野	観光協会にて 運用	観光協会 道の駅 観光商工課	普段はほぼゼロ コンテンツ制作は自立可能ゼロ	プロモーション費 から充当
 嬉野散歩	観光協会にて 運用	観光協会 (自立)	データプロジェクトは一式納品し、 運用マニュアルを渡すため 実質ゼロ	プロモーション費 から充当
 嬉野温泉観光案内所 LINE 公式アカウント まちあるきスタンプラリー LINE de うれしの スタンプラリー	市が委託。 観光協会にて 運用	観光協会 (市委託)	管理機能にコストが月単位で 発生 利用料 20万円/月	観光振興の公的試算とし て市の振興費またはプロ モーション費から充当
データプラットフォーム	観光協会・市 にノウハウを移管	観光協会 および市	運営システムだとコスト高のため オフライン・手動のデータ管理 手法(コストゼロ)を提示。	データ管理が公益性もあり 市の振興費またはプロモ ーション費から充当

自立した  
安定環境  
での運営  
を実現

## 2. 来訪者の移動を支えるモビリティサービス事業

### 求められる駅～商店街の移動利便性と、立証された自動運転のまちづくり効果

- 嬉野温泉駅～商店街間の移動手段は確実に求められている
- 「自動運転バス」の導入は嬉野市への誘客効果をもたらし、商店街への立ち寄りを促す
- 商店街と連携したサービス・情報の提供は、自動運転バスの利用拡大と、商店街への経済効果を相互に高め合う相乗効果を生み出す
- 5年間の取組を通じ、道路利用者の交通ルール遵守（路上駐車の上乗等）の意向も芽生えつつある

### 長期的な車両側の技術課題への対応として、経済効果に比して多額の運用コストが必要

- 利用需要を賄うには少なくとも1時間に1便程度のサービス（常時2台運行）が必要
- 車両側の技術課題（悪天候条件下の走行、路上駐車等の回避走行等）への対応には一定の開発期間が必要
- 当面は手動運転や運休対応を含めた体制・設備（ドライバーや代替車両、急速充電）への一部投資が必要

### 令和8年度以降の取り組み

- 車両側の課題解決に向けた経済的負担を踏まえ、**自動運転の社会実装は時期尚早**と判断します。
- 一方で、嬉野温泉駅～商店街間の移動利便性は求められているため、**自動運転以外の新たなモビリティの導入について継続的に検討**していきます。
- また、リアルタイム情報提供や、店舗との連携による付加価値サービス等、**まちづくり効果が高い取り組みについては、新たなモビリティとの連携**を図ります。
- なお、人口減少やドライバー不足、観光振興の観点から、将来的な自動運転化の必要性は高いため、自動運転バスの導入については、**まちづくりとマッチした車両の性能、および運用コストの動向に注視しながら、今後も継続的に検討**していきます。